



平成 29 年 5 月 24 日 (水)
2017 年 No.2 5 月号
横浜市立 新羽 中学校
☎542-1680 FAX 541-1038

【HP】 <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/nippa/> 【メール】 l2-nippa@edu.city.yokohama.jp

● 主体的、対話的で深い学びとは何か？ ●

～ 「社会に開かれた教育課程」 を目指して ～



校長 宮本 昌季

新年度二か月目の5月も、はや下旬を迎えています。学校生活の基本的な生活軸である授業が円滑に展開されていることは、大変素晴らしいことであり、本校における学校秩序の優れた象徴です。生徒の皆さんの学習姿勢は、とても立派です。

そこで、学び手である生徒一人ひとりに身に付けたい力とは何か、求められる学力とは何かについて、述べさせていただきます。先行き不透明な現代社会という一定の認識があり、変化の激しいグローバルな現代社会というところがあります。すなわち、不動の絶対的な価値規準や寄り辺となる大樹は、観念の世界での存在であって、自ら進んで生き抜いていく力と他者との積極的なコミュニケーションが、現実を打開していくリテラシーであるという具体的要請が出現します。

教科書に書いてあることを覚えるという学習事項は、それで完結してしまうのではなく、蓄えた知識群をどのように活用して、何ができるようになったのか、を目指すことが前述した身に付けたい力であり、求められる学力ということになります。習得→活用→探究という学習プロセスが、授業の中で発現していく必要があります。聞く→聞く→書く、を円環していく講義調授業から、聞く→考える・調べる→記述する・発表する、といった言語活動の充実を通じた授業へのスタイルの変換が、それを導きます。特別の教科 道徳においては、すでに目指されるべき実践スタイルです。

思考力・判断力・表現力の育成が、主体的、対話的で深い学びを通して実現されるべきであるという命題を、全教員が手にしています。そして、学校の中で収束する学びではなく、地域、社会とともに学び、育つカリキュラムを組織していくことが、有用な指導力を支え、生きて働く知識・技能を培います。

平成 33 年度に、中学校における新教育課程は完全実施となります。思考力・判断力・表現力を評価するための B 問題と言われる設問の充実や、授業内での学習プロセスにおけるきめ細かな評価の累積が、学力向上の基盤を作ります。評価方法である目標に準拠した評価、いわゆる絶対評価については、従前どおりですが、観点別学習状況の内容が改善されていく見通しです。



ちなみに、ディベートという討議スタイルの学習が注目されたことがあります。相手を言い負かすことを自己目的化させた場合には、対話性の深化に課題が残らないかと思っています。適切な公的言語活動を通じた、相手の心を察した双方向のコミュニケーション活動が自分づくりを助けます。かつてより日本の文化に備わってきた「いわずもがな」「阿吽(あうん)の呼吸」「以心伝心」が、単なる「沈黙」ではないこととそれは深く関係しているはずで

● 校長の授業見学日誌 2017 part 2 ●

～ 言葉を身に付けることが重要な社会科の学習 ～

【1年1組】社会科 新堀 孝太郎 先生



地図帳で、有名な都市さがしをしています。例えば、「ボローニャ」は、イタリアの都市で、ページのどこに見つかるかを調べます。見つけた人は起立をして、先生に点検してもらいます。どんどん手が挙がります。次に「ブダガヤ」は、どこか。索引のページを開くと、38LM6とあります。38ページのインドのページにあることが分かります。そして、LM6が緯度と経度を表していることに気が付きます。小学校で緯度と経度は学んだということ

です。本日は「緯線と経線」について学習することがテーマです。夢中に取り組んでいる姿は、小学校時代を彷彿とさせる皆さんですが、少し私語が混じるところを先生は、集中とけじめの大切さについて指導されました。

ノートを見ると、アフリカには「人為的国境線」が多いと書いてありました。難しい漢字と分かりにくい意味をもつ言葉です。「為」という文字を正しく書くのは、難しそうでした。言葉の抵抗を超えていく必要のある学習が、ひとつ社会科の特性でもあると感じた次第です。

【3年2組】社会科 大山 順子 先生

授業の冒頭は、時事問題への関心を深めるため、共通の新聞記事を全員で黙読します。マーカーを走らせ、キーワードを拾う生徒の目は、読み取りの充実した時間の中に輝いています。記事の見出しには、「タクシー相乗り都市部も」五輪時の不足に対応と書かれています。一人の生徒が要約の発表を行います。タクシー年間利用者の減少打開策としての工夫が述べられている旨を簡潔に述べました。また、感想として、利用者の増加に少しでもつながるとよいと率直な意見が出ました。先生の発声がしっかりと落ち着いています。



前時のノートの内容確認を行い、本時は、第一次世界大戦のアジアへの影響について学ぶことを確かめました。ロシア革命後の世界が社会主義国化を恐れ、シベリアへ出兵したこと、アジアの民族独立にはまだ及ばない段階であったことなどをたどりました。3年生として落ち着きのある、しっかりものを考えた時間を持っています。発言も積極的です。学習の基本的な方法が定着されています。使用される言葉は、やはり奥深く、重要です。

● 横

浜市教育総合相談センターについて ●

～ 必要な場合は、お気軽にご連絡・ご相談ください（横浜市教育委員会） ～
教育に関する相談を受け付けています。（不登校、友人関係、学習、進路、海外転出等）

一般教育 相談	電話相談	・月～金曜（祝日・振替休日を除く。）9:00～17:00 電話 045-671-3726～8
専門相談	心理相談 （面接・要電話予約）	・月～金曜（祝日・振替休日を除く。）9:00～17:00 電話 045-663-0137/045-671-3796
	医療相談 （面接・要電話予約）	週1回程度（週により曜日が異なる）14:00～17:00 電話 045-663-0137/045-671-3796
	幼児相談 （電話相談）	・月・火・水・金曜（祝日・振替休日を除く。） 9:00～17:00 電話 045-671-3796

● 新羽丘陵公園草刈り・ボランティア募集中 ●

よこはま緑の推進団体港北区連絡会の取組として、新羽丘陵公園の整備が次のように予定されています。草刈りや清掃活動に、ボランティアとして参加してみませんかというご案内が出ています。新羽中学校・地域コーディネーターの 安保 裕子 様が中学校担当の連絡責任者です。別紙のご案内を参照のうえ、中学生も奮ってご参加ください。

6月4日(日) 7月2日(日) 8月6日(日) 9月3日(日) 10月22日(日) 11月5日(日)

● 開校40周年記念事業実行委員会の進捗 ●

新羽中学校は、本年度、開校40周年を迎え、一つの節目の年度となっています。昨年度後半期より、新羽中学校PTA・OB会の皆様を中心に、標記の実行委員会を立ち上げていただき、活動が始まっています。実行委員長は、本校第17代PTA会長 磯部 秀夫 様がお勤めになります。

事業内容は、主に(1)校内記念式典（生徒中心の簡素な形）、(2)記念リーフレット作成と頒布、(3)記念祝賀会 の3点です。日程等の詳細は、別途にお知らせいたしますが、保護者の皆様、地域の皆様には、なにとぞご理解とご協力をお願い申し上げます。

隣接校の新羽小学校では、昨年度において開校40周年記念事業が行われ、それまでの歴年の歩みが振り返られたことと思います。新羽のまちに並び立つ小中学校のこれからを地域とともに見据えて、一人ひとりの児童・生徒のために、今後とも努力と協力を積み重ねてまいります。

まちとともに学校づくりが進み、こどもたちが育まれる新羽のすばらしさを改めて確かめ合える取組となることを心から願っています。